人とふれあい、見聞広げ

多感な中学生にとって、教育旅行（修学旅行）は学生時代の一大イベントと言える。楽しみでもあり、また不安でもある。非日常の場に身を置き、その土地ならではのものに触れ、見て、人と接することで視野が広がることもある。ここでは充実した教育旅行（修学旅行）を実施する４校の取り組みをレポートする。

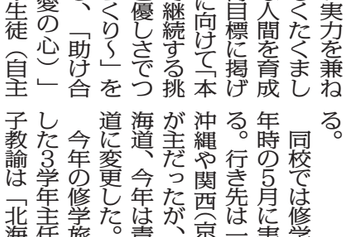
山形市立高楯中学校
青森・北海道　2泊3日
18年5月15～17日実施

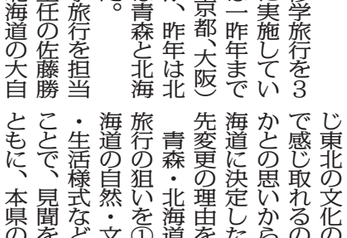
佐藤勝子教諭

三内丸山遺跡を見学

ワ・ラッセで、ねぶたの歴史などを学ぶ

津軽三味線弾き方の個人指導


函館湯の川温泉での夕食


函館山からの夜景見物

文化の違いを肌で感じる 生徒に自主性が芽生える

山形市の北東部に位置し、名勝地・山寺には約5キロと程近い山形市立高楯中学校（有路智子校長、生徒数182人）。7月初旬には県花「紅花」が咲き誇る農村地帯に建つ。1952年に高瀬・楯山村組合立高楯中学校として創立し、54年の市町村合併により校名を改め現在に至っている。

校是は「当難勿屈」。同校草創期、旧校舎礼法室に掲げられていた「校地を求め、校舎を建設する際、幾多の困難に当っても屈することなく乗り越えてきた貴重な体験として生徒に教えてくれたもの」という言葉に起因し、以来、数十年の時を経て校是となった。

「知・徳・体の調和をはかり、次代に対処する心の育成を目指していにふさわしい実力を兼ねる。

そなえた明るくたくましく情操豊かな人間を育成する」を教育目標に掲げる。その実現に向けて「本物をめざして継続する挑戦～正しさと優しさでつながる学校づくり～」を教育方針とし、「助け合う生徒（敬愛の心）」「進んで学ぶ生徒（自主の心）」「鍛えあう生徒（不屈の心）」の三つのに加えて、本州最北端の青森を訪れることで同じ東北の文化の違いを肌で感じ取れるのではないかとの思いから青森と北海道に決定した」と行き先変更の理由を語る。

青森・北海道への修学旅行の狙いを①青森、北海道の自然・文化・産業・生活様式などに触れることで、見聞を深めるとともに、本県の地域性や自然環境との違いを認識し、郷土と行き先の独自性を実感させる②学校を離れた集団生活を通して、社会生活におけるきまりやルールを守ること の大切さ、必要性を認識させる③修学旅行計画・立案・実行を通して、自主的・自律的精神を養い、学年全体の団結を高めること―と定めた。特に「生徒の自主性、自律精神を養い育むことが一番の目的」と佐藤教諭。

そうした目的を達成するための行動指針は、修学旅行実行委員の提案を学年総会で検討する方法をとり、生徒自らに作成させた。佐藤教諭は「互いの良さを発見し認め合う機会にしたかったし、リーダー育成の場にもしたかった。また、自分たちで作ったルールなので実際の修学旅行では規律ある生活をするだろうと考えた」と明かす。

青森・北海道への修学旅行は5月15日から17日までの2泊3日の行程で実施。管理職（教頭）、養護教諭の引率6人を含め60人が参加した。

1日目は、午前6時30分に同校を貸し切りバスで出発し、昼12時過ぎに青森に到着した。あらかじめ決めていた男女混合の5、6人の班での行動を中心とした。

最初の立ち寄り先の青森県立美術館では世界的に著名な作家、マルク・シャガールの「アレコ」を鑑賞。引き続き日本最大級の縄文集落の一つ、国特別史跡三内丸山（さんないまるやま）遺跡を半日コースで見学した。

JR青森駅前にある青森市文化観光交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」では、「ねぶた」の誕生までの歴史のほか、青森県民の生活文化や風習も学んだ。浅虫温泉での夕食時には津軽三味線を鑑賞し、個人指導で弾き方などを体験した。

2日目の朝、新青森駅から新幹線で新函館北斗駅に。トラピスチヌ修道院や五稜郭公園を班ごとで自由見学した後、湯の川温泉の旅館にチェックイン。山形の中山間部で育った生徒たち、夕食で出されたズワイガニと眼下に広がる海には大変喜んだ。

夜は函館山からの絶景を全員で眺めた。山形では見ることのできない夜景の美しさに感銘を受けたという。

修学旅行を終えた生徒たちからは「友だちとゆっくり話ができたことや、学校とはひと味違う友だちの良さに触れたことが一番楽しかった」との意見が多かった。

佐藤教諭は「一番の成果は生徒たちに自主性、自律性が芽生えたこと。次にこれまでにないコミュニケーションがとれたこと。高校受験を控えコミュニケーションを大切にしていくことが必要であり、団体生活を通して多感な青春の一時を過ごした意義は大きかった」と語る。

千葉市立越智中学校
広島　2泊3日
18年5月13～15日実施

吉野敏教諭

平和記念公園で折り鶴を奉納する

雨の中で合唱コンサート

「平和学習」と「交流」が柱 事前の準備に力を入れる

千葉市立越智中学校（三橋伸夫校長）は、豊かな森に囲まれた、生徒数158人の小規模校。生徒、教師ともにアットホームな雰囲気で、地域の人たちとのつながりも深い。校訓は「自主勉学 協力連帯 積極鍛錬」。学校教育で「自ら学び、豊かな人間性を持つ、心身ともに健康な生徒を育成する」ことを目標としている。

同校は今年、これまで信州で実施していた修学旅行の行き先を、「平和学習」と「交流」の活動ができる適地という理由から広島に変更した。旅行場所や内容を刷新し、生徒に新しいことにチャレンジさせたいという教師の思いもあった。

具体的な目的を①広島県の自然、風土、人に接し、日本の文化を見つめ直す機会とする②平和教育を基軸とし、折り鶴の奉納や合唱コンサートの実施、外国人も含めた平和記念公園を訪れている人たちとの交流を通して、自主的な態度を育てるとともに、平和の尊さを考え、世界に発信する機会とする③江田島の民泊体験により、民泊先の人たちとの交流を通して、豊かな心を養い、また、体験学習によって、江田島の自然と豊かさを感じ、視野を広げ、社会性を身に付けさせる、などと設定した。

その広島への修学旅行は5月13日から15日までの2泊3日で実施。3年生の全員、3クラス・男女48人が参加した。

初日の13日は、新幹線で昼ごろに広島に到着。平和記念公園で、持参した折り鶴を奉納し、平和への願いをしっかりと祈った。折り鶴の数はおよそ6千羽。生徒が作っただけでなく、公民館でのコンサートを通して、地元の地域の人たちにも協力を依頼して折ってもらった。

班別活動として生徒たちは、外国人も含めた平和記念公園を訪れている人たちと交流。案内のパンフレットを配付して自分たちの合唱コンサートに来てくれるよう日本語や英語で呼び掛けた。

民泊先で家族の一員として過ごす

江田島の民泊の人たちとの別れを惜しんだ離島式

平和記念公園内の広場で開催した合唱コンサートは「世界に届け 平和の思い」がテーマ。雨が降る中、カッパを着て、被爆ピアノを使用した伴奏で校歌や原爆の歌「消えた八月」、学年の歌「結ーゆいー」などを招待した人たちに披露した。

合唱コンサートのパンフレットを配布しながら外国人らと交流

3学年主任の吉野敏教諭は「雨にもかかわらず、本当に多くの人が聴きに来てくれた。中には生徒の合唱に涙する人もいて、生徒たちは非常に感激していた」と述懐する。

班別活動ではそのほか原爆資料館や原爆ドームの見学も行った。

その後、広島港から高速船で海を渡り、江田島市の能美島に入る。夕刻、民泊の人たちと対面する入島式。事前に各民泊先へ生徒の自己紹介を録画したDVDを送っていたので、初めて会うような雰囲気ではなかった。催しとして生徒たちが校歌ソング「江田島が好きじゃけん」を歌うと、「島の人たちが驚くとともに、とても喜んでくれた。それで一気に生徒たちとの〝距離〟が縮んだ」と吉野教諭。

3人ぐらいずつに分かれ受け入れ先の各民泊家庭へ。生徒たちは夕食作りなどの手伝いや、釣り、シーカヤックなどの体験活動を行いながら翌14日の午後3時ごろまで民泊先の家族と交流した。

吉野教諭は「民泊ではお婆ちゃん、今日はゴミ出しの日じゃない』と言ってゴミをまとめて捨てるなど、そういうふうに本当に家族の一員として過ごしてきたという話を聞いた。過ごしたのは24時間だった晶と言える」と吉野教諭。

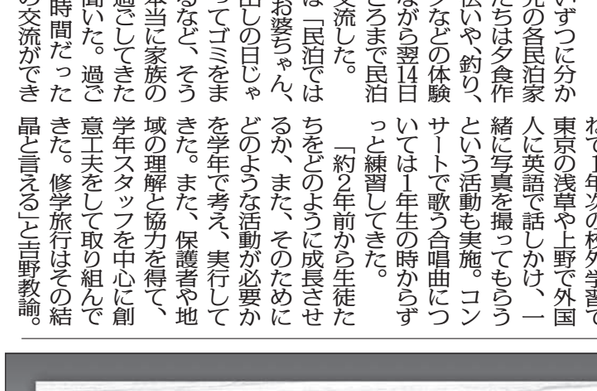
映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

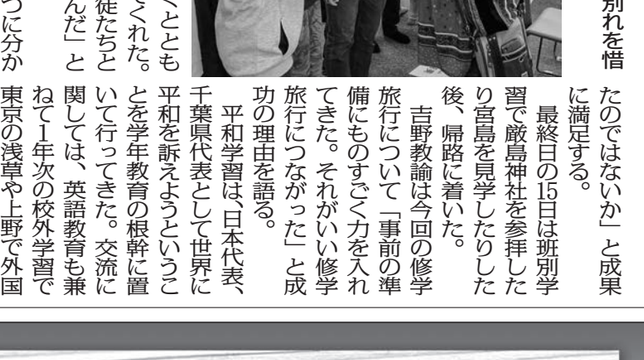
お手軽な時代劇の扮装体験
時代劇の扮装をして映画村の江戸の町を歩いてみませんか。メイクなし、かつらも省いた着物の着付けだけのお手軽プランなら、短時間で「変身」して時代劇の世界をお楽しみいただけます。
【扮装種類】町娘・振袖若衆・武家内儀・千姫・若侍・遠山奉行・町人・浪人・坂本龍馬・新選組隊士・忍者

清水焼絵付け体験
【染付】素焼の生地に絵付けをしていただきます。染付の色はグレーと茶色の2種類あります。
【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに3～5色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

京扇子・京うちわ手描き体験
舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

※体験学習は全て有料・要予約となります。


お手軽な時代劇の扮装体験


清水焼絵付け体験【染付】
清水焼絵付け体験【京焼】
京扇子・京うちわ手描き体験

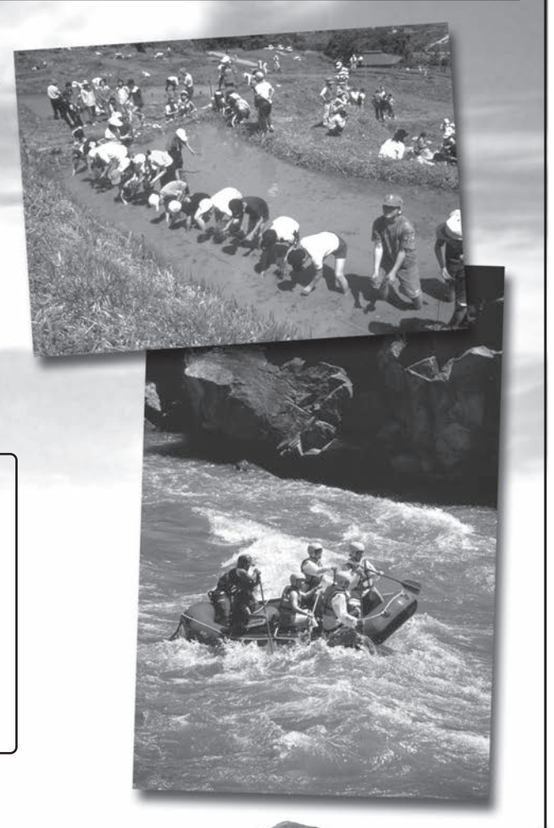
体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで!

TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
ナビダイヤル ✆0570-064349　お問い合わせ ✆075-864-7716
営業時間 /9:00～17:00（3～7、9月の平日と10、11月毎日）
9:00～18:00（3～7、9月の土・日・祝 と8月毎日）
9:30～16:30（12～2月の平日）
9:30～17:00（12～2月の土・日・祝）
休村日 / 2019年1月21日～25日

年間4500校以上（平成28年度）にご来県いただいている

信州・長野県への学習旅行は

(一社)長野県観光機構は、長野県庁内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。
資料請求・お問合せは下記まで!
皆様のご来県をお待ちしております。



お問合せ・資料請求先
(一社)長野県観光機構　担当:吉池・北沢
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3233
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁 1階